

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



廣益地錦抄卷之四目錄

牡丹^{ホトキ} 當歸^{トウキ} 芙蓉^{ワカ} 養香^{カウカウ} 南星^{ナンセイ} 瓜樓^{クワロウ} 鴨跖^{アツハシ}

芍薬^{シヤクヤク} 瞿麥^{クマク} 白芷^{ハクシ} 射干^{シャカン} 白南星^{ハクナンセイ} 草王^{クサノミ} 菱蕪^{イソ}

人參^{ニンジン} 沙参^{シャシ} 白木^{ハクキ} 大黃^{ダイウ} 半夏^{ハンゲ} 益母草^{ヤクモクサ} ヲトキリ

菊^{キク} 黃連^{ワウレン} 木香^{モクカウ} 烏頭^{ウツ} 茴香^{ウイキヤウ} 黃精^{ワウセイ} 百合三種^{ユリ}

藥草二十六種

吉田待郎氏 寄贈本



5

香薷 カウシユ
飛廉 ヒレン
穀精草 コクヤウ
於膽 ウツタン
稀莖 キシ
車前 シヤゼン
牽牛子 ケンウシ

薄荷 ハツカ
馬薊 バキ
蕺菜 ドクダミ
午藤 ゴトウ
升麻 シヤマ

大薊 タイキ
細辛 サイシン
赤地利 イシカハ
冬葵子 トウキ
天名精 テンメイシ

小薊 コキ
杜衡 トコウ
鼠尾草 ソビ
蜀葵 シヨクキ
紅花 コウカ



凡例

藥草ハ唐和ト名付クニ品有ルニヨリ
ハ中ふニ三種有キモヨリ葉小長短
尖ノ異有リ又冬去地ノウラフヨリ
一種ハてきた葉乃ハヨリあるを
唐乃葉とあり人評後ヤと見ゆ
之本草綱目小其味と云はる糟粕
たを草の葉形ニ極ス葉に付
是時蘇頌ノ所説乃人參ヨリ



牡丹

乃磨の牡丹と目か
お白の二畝ありおとふ
おひらうと紅あつく花
此まよりとくけとす
色さの白といふも花や
とすくうらとそとあ乃
うら小豆此とく花
つげも磨給小あし
まかひ二種あり今も
実生よりかまりてお白
あつ多葉枝よのたひと
そは紫白とて用といふ

芍薬

多く種あり花相
とよめてがんに
次りお小敷百乃あつ
て二階ニがのあり金銀
のりやうある地金とて
銀とて令ままり物令
金蓋すといふ家令銀
此名あり葉種の芍薬
る各別乃地あり葉形
葉直と少ゆるちがひ
あり花のひと小つん
川骨の花のどくあく
天とひきくむく

人参

まよと極りく
ゆるふとへんあて
甘の味似く根とあり
て二年と魚と花さく
高井又た大とのひを
苑出林末とてあり又
一持あり葉形芥此と
く枝多葉か多葉か花
小ひらうとく花実あ
実乃味うらとく根
此かしら人形の花
とく味あまう少若く

菊

かざりたて林實と
むとぶも実とれて三芳
田方へもれ門の葉小
ゆらとくは香花あり
ゆらとく花ふとれり
お白の二種あり花の根
赤芍白へは若なり
葉種ふの田中乃の色に
多く花さく黄色花を
用らありひの花の色うら
ど味葉とくとりは月と
ひ花とくとりありて
夏菊をいふ菊のあり

香氣を益加増のせいの
わらうらふに朝鮮中毛似
るる一花を白くせり
乃てく枝さく

當歸 長乃て人かちる
てせりののこく

にて花さくまより枝
末まきく枝さく枝多
かく枝くはひくく花さ
ろし花実根葉を小香
氣をくく

沙参 長く人かちる
わらうらふに

おほく出はれを料理用

附録の云々花千葉あり
ひくくは黄くは赤く
同色大小乃別を味其く
若草あり夏秋を菊
よりとり

瞿麥 葉終ふに田野に
多くあり

ひとくは花実をとりて
用是でかきくまてしこ
と云花壇に植るハキハ
さくくより本草に
かてしと一様と名別
すの田野にせ者花大

黄連 葉を白くして花を
ちりく初法花

にさじらりく
五月中乃は名中
はがとと知 疎葉附
おきけ 新桂ありてお
がめ雨のまき末に実

葉乃てくおは葉の
是葉終ふ周人かち
物花好媚是世に
と云葉にあり又弘葉
と云葉あり一様ハ
大く花のるりにま
ありとりり是か
るてしと花乃るりに
切葉のまきく石竹
に葉地を竹を葉を
せのたぐく花をかん
やうくくおとあ
とあつと朝鮮あり

実乃るらりともあはる

白正ひやくせい

紫に切せありて大赤
あらくむとて二年

けりて花さく花乃りあり
あらくは又尺またああり

あまの秋まきくひうく
花紫ともむ番あり

白木ひやくぎ

去る人出乃美い去
うくもありてあ

此がも乃かうらありて
花のく花の文ゆくか

さうく色花乃うくはあ
のどく花あり

花不紅ひとへありに

切込のまきあく紫も

は政程の和乃葉として

海乃をれとも本草綱目

小のせん後よあるあ

日本ハ寛文ハ中後ハ実

黄若わうじやく

紫ハ小葉乃紫此
とく葉立ハ二三尺

まきくのほちあ乃と

より此乃い出く若乃

花のどく花うとあま
花さく実いさげれどく

本香ほんかう

紫ハ志んもの
くたきくあり

花形ハあつらぬの紫乃

どくあくたうんひふ

うん也ハ又尺とのひ

うらして多くともあ

藿香くわかう

えハあそ花紫に
ゆるまてあ

射して付紫のありあり

枝ゆく後の末あらは

小葉さくく紫とあ
てあけはも紫あ

射丁しゃてい

紫花のひあまき
ありうすあ

ととひあ紫乃りいハ

射丁紫乃鳥卵のく

杖ハ草花と寸とり

丹嶽冬い紫花乃花

ありと云は紫花乃

日本ハ凡とと年

とらうん又黄うらん

也乃三種出らばあハ
田中ああうすあ



芍薬



獅子牡丹

小人参
こじんじん



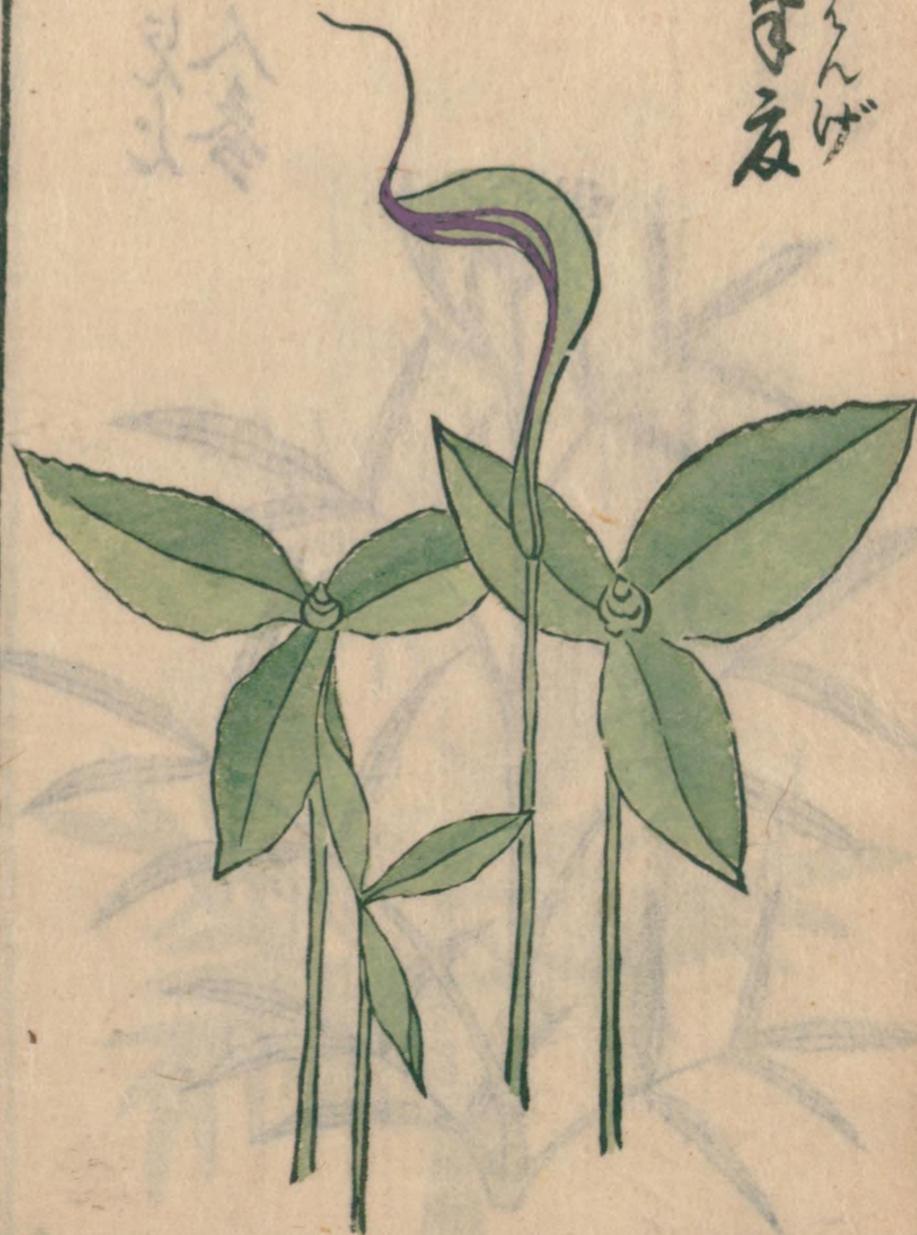
人参
にんじん



沙冬



沙冬



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

藿香



木香



白木



茴香



當歸 たうき



果王 くわ



小薊せうげ



大薊たいげ





益母草
やくもくそう



花麩
ひまじん

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



百合

琉球百合



四十八

四十八

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

冬葵子



蜀葵



四十六

四十六

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

白芷びやくし



附子ぶし烏頭うづ





人
信
友



石
竹

四ノ十七

国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



九
大
葉



馬
蘭

四
ノ
七

大英

唐和乃二種あり
和乃葉の葉多
と云れくましく心の中より
豆のく二箇ふののり
花うとわくく蒼黄
れくあらあてんふ
そく唐の葉丸く
大く路ありては
うくくくくんむ花
冬和入くくく少あり
あり根の和より各
大く英うんんん

烏頭

葉のわきの葉は
アうくくく
に切也あり花を
乃くくくんんん
花根ひくくく
俗人の名冠れく
然として葉花のみ
さくくくく
立烏帽子と云く
者乃面ふして鼻
そあつりてく
と葉大く花うり
きんてくく

南星

葉の葉の葉
葉とくくく
に花の葉の葉
より葉の葉
すりくく
かうとく
花乃とく
とく
突ハあり又一種
と云一花二葉
花の葉の葉
葉の葉の葉
葉の葉の葉

花根

花根の葉の葉
後とくく
くくく
とくく
此と云鳥の
とくく
母り付く
とく
葉の葉の葉
て小葉の葉
大あんせう
ちのく

秋格朱乃也にわく
かぐめわり

苗香

冬より葉をたぎりてあ
あり夏乃は花さくす
黄を花葉ともか香も
あり花煙よりうて
時珍が云原冬苗とま
とがりてあくと六月黄
花とひくくそりひた
宗師が云苗香胡荽に
似たりなり草註よ

玉瓦

乃小実といふも丸じつ
ころぐく田舎まき
俗おろす瓦と
本に飯とよ葉丸く
あり夏乃花瓜ひく
日著乃何分さく実ハ
ひめわり此ふくく
外て秋少を付くかハ
黄文より物あり冬ハ
冊湖乃くくわく後
文といふもやうか
かまは玉瓦といふ

人ク誤りりといへども
くす胡荽よりく似
わたり葉花の細い
さくすうハ花とま
あんの葉とわり

草玉

冬より葉をたぎりてあ
あり夏乃花さくす
黄を花葉ともか香も
あり花煙よりうて
時珍が云原冬苗とま
とがりてあくと六月黄
花とひくくそりひた
宗師が云苗香胡荽に
似たりなり草註よ

於止木利

乃小実といふも丸じつ
ころぐく田舎まき
俗おろす瓦と
本に飯とよ葉丸く
あり夏乃花瓜ひく
日著乃何分さく実ハ
ひめわり此ふくく
外て秋少を付くかハ
黄文より物あり冬ハ
冊湖乃くくわく後
文といふもやうか
かまは玉瓦といふ

むと後ハこぼさる
ずして多くせしむ也
矢とよふふれども必
稟ひてふらめとせり

黄精 葉ハ竹乃葉のこ
くぬ方へ付ク枝
おく一なつて出らふと
だれて葉乃あしより
花修しさづりて咲花
色うとまう一花葉も
葉といふ実丸くさざり
て色うあし 葉葉の
葉備し不對者備精

といふ葉對生ハ正精と
ととりり今乃る對
生ハあしれあして数干
葉乃何小一葉とまゆ
まかおちるひま付ク蘇項
か實ハ白く如黍粒と云
ハ心ゆくと黒くして梧桐
子かとあり

茶葉 葉苗物より
豆も葉も葉
精のこく一らひあり
まう世ハ葉形をそと
竹乃葉のこくをそと

口口

黄精とさづりてとれ
あしと湯にひきと
えがり綿にひきして
臘脂として給具に用
ととり小葉より多
極てさうどんを月ふ
まがさかかん又は茶を
飲る病と治すたり

鴨跖草

葉形毎乃葉
のふく田中
多く生花丸くさん
さ乃くはをたえん

乃どくは花とりのそ
給具に用るこんせうの
色と深葉葉のあつさ
たふかうたふひ葉と
りそ蛇犬のやひく
に付てあつしあり毒
虫さしありにありて
妙葉なり時珍が白花
飛蛾形の如く葉葉翅
如ク角ありてさづり肉
ましくをれららざり
くく花のけととりて重
色とせりこい葉あり

百合 葉花ふい花白草と
 用とふ大和河内
 として花ゆりとも芳
 花少ふ多クもなる花の
 色白く葉乃りりまはて揺る
 のとくぬとてさう関東よ
 てはさうゆりとも葉花

種乃葉此ふとくおれど
 有り取く中々に多あり
 一種花小葉細もりしと
 可く極テ白花ぬるもつう
 ちうゆりともい種はつう
 ちうゆりの後りり物と科
 に用又一種丹卷といふ
 有花赤くやとていふも
 て花中に葉なりを有味
 余葉花せんある肉まは
 花さくゆりもあがりあり
 板の料地ははく味は
 介乃ゆりの味さして

四ノ三

益母草 長苗と生葉
 葉麻葉に似

葉花とあるのとくも
 葉小極く新葉あり
 ちかハさすしうさ死
 小細花さふさすは葉
 とふくもかれさうり

香薷 葉と今ありうに
 葉と今ありうに
 山おろりあり

薄荷 田沼に多く生ハ
 香と氣がさわり

香気家...と云はる付
 との...もあつて
 方へ付...何ハ葉
 わつて入きさうりもては
 ち向きの香氣鼻とて
 目とさ...目
 小細花さうりさうり
 大薊 大小乃二種あり
 山中に多し

不食丹卷ハ紫の房
 黒く実あり丸て楕
 一い糸花とありと百
 合数種を是ハ紫種の名
 死麩ひ 紫ハあざみ子似
 て各別なる物也
 之出ハ牛房ボウの紫ムラは似
 たり紫のうらむくを
 て紫よりのありて中ハ
 花ハ二四尺ふのかり紫
 ちらびハ付て紫の種ハ
 ども物ある花ハあざみ

乃青あり甚多紫ハ
 湯ハとてひく木料
 理して味う一版ハ紫人
 々あるふとて割て
 生ス花ハひくた花ハ紫
 大菊小菊一様とて
 大菊ハ肥て大なる
 三四尺紫ハ皺あり山
 若小生スととりは花
 はずびつりあは紫別の
 ちらり大ハ花ハあしく
 林さくちらり大ハ紫
 ハ回ハましく大とあり

心て墨ハ紫ハ倍んて紫
 乃ち也と死といふハ紫ハ
 取に多くありとて紫
 に多くあり
 馬薔び 紫ハあざみ子似
 ちらびハ付て紫の種ハ
 ども物ある花ハあざみ
 ちらびハ付て紫の種ハ
 ども物ある花ハあざみ
 ちらびハ付て紫の種ハ
 ども物ある花ハあざみ

小菊ハ花ハうく甚
 末ハの多しとてひく
 久しうた花種ハ極る
 あさみ乃らあり今
 花ハ紫ハある也小菊ハ
 ちら草ハ大小菊ハ紫
 取に多くありとて紫
 ちら草ハ大小菊ハ紫
 取に多くありとて紫

四十四



くげんそう
る
散草

四又廿四



多
車
花

四又廿四



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



南星 かんせう



王瓜 ヲ、ク

国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



菜の糖ぶ



白南星
くろんせう

六十四

四十九



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

らめひん
年面菜



こうき
黄精



黄連
まろくわん



麦門冬
まごもんとう



細亭
糸元



杜衡
とくろ





イシミカハ
赤地利 カヘルノ
ツムカキ

イシミカハ
赤地利

四ノ又七九



夜色花
赤麻

白花
赤麻

正ノナガ



鴨とんぼか
鴨踏草

くさくさ
穀精草



細草

野乾丸くちあさく
しつこもわよひふ
こり小葉そり花の根
りこふ付く玉は葉小
花のりあよりのままそ
てんんふたふん葉を
もつとす花のりあも
杜衡 さのまんといふ
葉長くふ葉の
中作ふうと白く紋を
花をふのまんといふ
ふそくそふんお小れ
りあそふすすてあり

杜衡

葳蕤

田中末乃下廿日
びさた雨とあ
とく多く生え花格て
白く田花あして田方か
中ふ花をふそり直とく
危人の葉とふとく
こたら葉あわつる葉わ
つとくもふは切も真
十葉とらふる乃らとら
ふ月ひて十葉のあさ
十葉とらふるといふり
いりこふん

穀精草

田乃中れ生え小
葉の六七月小葉
さく葉あかすせにせう
あつくふ付くま中ふ
汁のつく葉多き出た
に丸をお付くまつくまか
から葉のつくま
さうと云新小極てかめ
ふそり又二種の葉大く
花数少きありかあり
糠頰が穀田の中れ生え
三月花と丸白小葉星
形のつくまあり

かからふくあ花三月
はつりつくまありの
ふつくあり時珍が云穀
おさけるは花田の中
あける細葉を井田又付
葉のつくま小葉花の礼
野のつくま九月花と丸
とりの葉をさうと云
たろくは極て小葉あさ
む荒田の中ふは余葉
はまけて生えがくし
極て一度つくまありて二
度つくまあり

半面草

田池溝のり乃
多ふ多くあり
葉形少く中がく家
也眼目のくくらあり紋
黒くありて青なる
葉葉形まてさあが半
面は似たりとく後小
うしはひふらあり花は
ちろく小細花ゆり花
あひ乃文あり花まふ
とよりべし葉とのみ
て血とありとすく先
とあり花はまきまあり

麦

葉をそそぐく
せせうれあり
か大葉ありと二種あり
いそりありとつひげと
大方今馬場乃を春
の下をよりのりあり
よくとありて冬とれど
田舎の寺院を家にお
り下に植あふれに
とどりのうらとよん
ふあそりてとくびこ
極まてくんだうま
じざつがのくくあり

龍胆

自然とて花さく
葉色葉も秋
乃まくとく後り
林まて葉色の花さく
信是とてそそぐと云
七月盃葉盆乃うら
人鬼と葉よけ枝ま
ととま向そり平葉
に借ととらひ花あ
はあひけ葉まそあ
龍胆とてくんだうの根
葉様み用花さうりち

半藤

久くかありあり花
煙は極る
葉古根らりせ葉
ひろく葉を散く
のびるひまらひ二三
すりふ葉ありて小枝
細く反りて葉さく
穂のぶとく葉まてお
てんさくはひ葉
日その空うあり半
乃藤は似たりひま
に名付とあり葉んで
に葉のひまらひ

大あつた葉を分ちんとし草
に似しくひらく長根葉
大つた葉なり

稀^ヒ茶^チ

葉丸く三四寸乃
ひらくみくうす
あらく花わりの秋葉を花
ごとく梧桐子をくまて
よぶ実と葉の稀茶
葉をわたりみくま
乃こ湯茶とてりて酒
よそ七夜ひけて細末と
ゆ中風乃者に毎服
用てちちあり毒虫乃

馬^ウ鞭^ベ草^ク

葉らふの葉
細く枝あつく
お夏のほらぐらうなり
くか極乃くくにくく
実ら葉わりの葉葉が
くく実ふ葉馬鞭草
此がくく名付く
冬^{フユ}葵^{アオイ} 葉ハ小あひひは薄
るづりひて花ら
小細な花みくく弘葉
うい秋くくと極たど
とるくく葉にわたり実
瓜じよよとと冬葵

さきさきあつた葉なり
乃くあつた葉に雌雄あり
葉取く細く葉うすく
かめくわにけてまつく花
葉小細をり実ハあく
花志やして人夜よこの月
乞とめかのここの葉も
葉とりて毒虫くく
にわたり。あかのここの
葉あやうらうみみくく
くみくくしてはけては
見とつておく葉なり
いり稀茶取あつた

蜀^{シヨク}葵^{アオイ}

今今東海乃東川と
川傍乃あつたの名あ多
けあり小あひひの葉に
似てあ物葉をり実を
葉終乃冬葵子なり
今花酒みうゆ
大あひひ乃あり
花あつたくあつた葉
花あひひの葉くく
時珍が曰蜀葵所く人
に種る春苗植て冬月
宿根よりの又苗と生ど
やうくあつた

とりし者あり雌雄とい
つらまんの葉大くあつく
豆葉に白く毛ありて
草へらきくまうく男
かのみとりの草を葉う
とくやちうらに豆を
く葉へらきくまうく女
かのみとりの草を

澤蘭

葉乃ぶくく女小
お射して付く葉葉
はうす白く毛ありて
うまひくまうく女

芥麻

葉にられありて
くうすまろく毛

とめりの地まうく生

へと花はらむひくうま
友をそり友のひひくま
余花すれあふ時節に
さけてかうめま又一種葉
を花をさちひいてり
白花をらむ六月花う
かりめありうす葉は
山野に多く生す白花
ハ葉特甘うまをりよ
特よハ葉に用りとい

四ノ三三

豆乃ま井又大尺花のひく
けふゆく大まくなを
知は葉白くせんやうひ
ま豆葉乃の葉は
あり乃の葉はま令粉
種心乃者たふひあしわ
わへり今多くありとい
へた柱てかうあふと花
のころのえく下か版く
花ひくま葉まをさけて
の葉は葉よひ花まを
さけてのがの葉は時節
梅の葉の終りといふ

天名精

葉ハまどんに似く
山叶ハ多く生葉

皮てひづりて布にやり
他ふあつて用り葉と水
ふひうてかまをさりて
葉の葉をさりてく大
とめりの地まうく生
とめて腹毒にぬりて
ういふまを止む毒は
一葉をさるべ
花はらむの葉は
人衣ふとの葉は
葉特乃鶴虱をり

851

5

車前

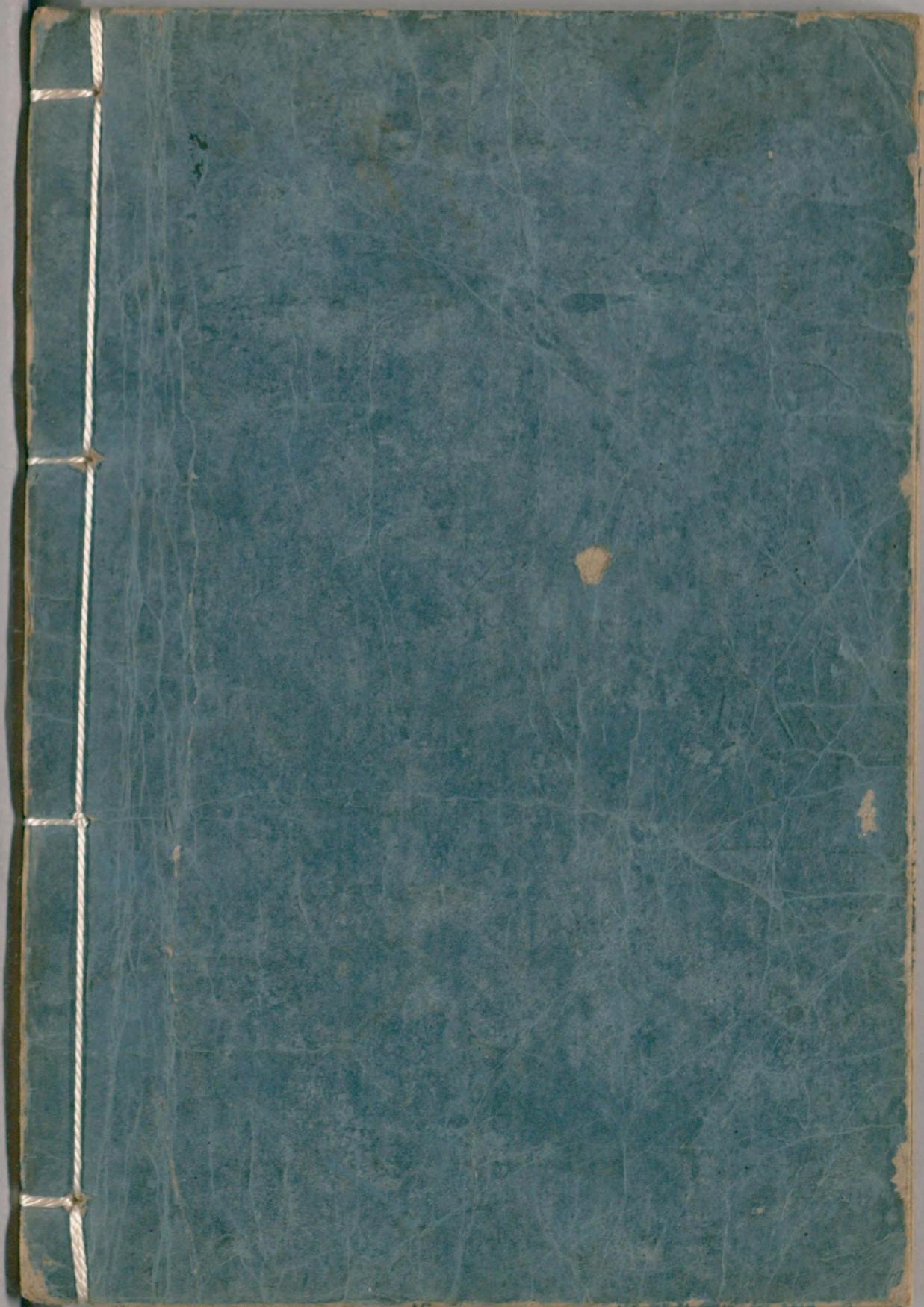
石の色に多く生ず
おんをこしよ葉地
俗小馬乃足跡より生
くわが葉種より生ず
時珍のよる乃通牛馬
足乃わく小生故馬蹄
こいふとわあめへあは
葉へ地みまびらり花
地のみくまくらり小
くま実へあく二味の
くま葉種乃車前子

廣益地錦抄葉草四之巻終

紅花

魚乃花八月子
と桂曰六月お葉ま
ぢりてをかさくちかめ
あそからる魚に小とろ
一葉種小圓也
牽牛子
あさり魚乃花
くかんの。葉の
葉。お。極多あり葉
種乃くむくは花さく
用也

四三三三



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用